

本資料は、有識者会議等における有識者のご意見を事務局で取りまとめたもの（文責・事務局）

## 中部圏広域地方計画有識者会議等における委員の主な意見

### ●奥野信宏座長（中京大学理事）

- ・「成長」「人口増」の2つの観点を言えるのは中部圏の大きな特徴
- ・国土計画や国土政策は谷筋や街筋の文化を守り育てること。「文化」という言葉が大事
- ・共助社会は骨太の方針で成長戦略に位置付けられた。広域地方計画でも重要なキーワード
- ・南海トラフ巨大地震中部圏戦略会議は全国でも先駆的な取組
- ・多種多様な熱源、対流がある。国際的な対流、日本全体の対流、圏域間の対流など
- ・スーパーメガリージョンは熱源そのもの。コンパクト＋ネットワークはその圏域が熱源。小さな拠点も熱源のひとつ、共助社会における多様な主体（NPO等）も熱源のひとつ

### ●伊藤範久委員（中部経済連合会専務理事）

- ・産業面におけるグローバル（大手企業）とローカル（中堅中小企業）の両方の視点が重要
- ・中堅中小企業の人材不足対策、労働生産性向上による給与所得の増加
- ・名古屋（グローバル）と各県の中心都市とその周辺、中山間地（ローカル）を意識する必要
- ・インフラは産業、観光、地方創生、国土強靱化など全ての分野・社会経済活動のベース
- ・中部圏を支える人材育成、産学官民の連携が重要、UIJ ターンの取り込み

#### <中部・北陸圏連携>

- ・産業分野での中部・北陸圏のそれぞれの強みを活かした戦略的連携、東海北陸コンポジットハイウェイ構想（炭素繊維）、アジア・ユーラシアダイナミズムの取り込み
- ・広域連携を支える東海北陸自動車道の全線4車線化

### ●内田俊宏委員（中京大学経済学部 客員教授）

- ・国際競争力を高める上でのインフラネットワークの重要性（道路、空港、港湾等）
- ・航空宇宙産業における、B787やMRJ一貫生産体制構築は中部圏のアドバンテージ
- ・中部はものづくりのマザーエリア
- ・訪日外国人旅行者の取り込み、中部国際空港と成田・羽田、関空との棲み分け、トランジット機能の強化が重要
- ・コンパクト＋ネットワークは中部の自動車社会を前提に考える必要。郊外型分散はコンパクト化の実効性を失わせる恐れ
- ・中部の農業資源は特筆すべきもの。昨今の若手従業員の増加傾向、UIJ ターンの取り込み、農業は高齢者の健康寿命を高めるうえでも重要

#### <中部・北陸圏連携>

- ・産業分野の連携、例えば北陸圏の医薬品技術と中部圏のロボット技術の融合・連携、Win・Winの関係構築
- ・訪日外国人旅行者の注目は、グルメ（日本食）・ショッピング・四季、リピーターは温泉
- ・昇龍道プロジェクトは全国に先駆けた先進的な取組。テーマ性・ストーリー性を持たせた広域周遊観光が重要

●江崎貴久委員（有限会社オズ代表取締役・海の幸とやすらぎの宿「海月」女将）

- ・資源には地域資源、観光資源、自然資源、経営資源の4つ。適切な配分バランスが重要
- ・中部山岳や紀伊半島の山岳地帯から伊勢湾へのつながり、当地域の持つ自然の優位性は大切
- ・地域に住む人の幸福度の見える化、小学生に対する地域の魅力や個性を伝える教育
- ・インバウンド観光、観光業の国際化、海外実習生・研修生、外国人スタッフ雇用、おもてなし

●大西 隆委員（国立大学法人豊橋技術科学大学 学長・日本学術会議 会長）

- ・地域づくりには「攻め」と「守り」両面の視点、人口減少に「適応」の視点が重要
- ・ものづくりの強みを活かした第3次産業の弱みの克服（ものづくり系サービス産業の創出）
- ・コンパクト化や拠点化は生活の選択肢を狭めるという懸念もあり、反対意見もある。複数拠点を用意し選択できるという状態も必要。コンパクト化の意義、メッセージを絶えず送り続けることが重要
- ・グローバル製造業の集積を活かし、研究開発機能を集約させる施策が求められる
- ・戦国から我が国を先導してきた中部の歴史文化は特筆。発信すべき、サムライ、武将文化

●大野 研委員（国立大学法人 三重大学教養教育機構 教授）

- ・コンパクト＋ネットワークにより残る広大な面の活用、魅力につなげていくことが重要
- ・守るべく自然環境、風土風景・景観、農山漁村の維持、保全
- ・環境とものづくり、強靱化、地方創生等是对立関係にあり、その融合が重要
- ・生物多様性は中部のアイデンティティとして重要

●加藤百合子委員（（株）エムスクエア・ラボ代表取締役）

- ・農業生産者と需要者、消費者をつなぐ小口の青果流通システムの構築が必要。農業にも物流の観点が必要
- ・農地の一区画あたりの大規模化による生産性向上
- ・人材を呼び込むには新しいことにチャレンジしやすい環境整備が重要。中部はとにかく保守的とも言われる。
- ・女性の視点から起業を考えると、職住近接や子育て環境の充実は重要な要素

●木村真樹委員

（（公財）あいちコミュニティ財団代表理事、コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事）

- ・地域課題が顕在化する前に先取りして解決に取り組む NPO やソーシャルビジネスの質を高めるには、解決に挑む前の地域課題と先行事例のリサーチが不可欠
- ・共助社会を目指す多様な主体による事業の継続性を確保するためには、地域の資金を地域で活かす資金調達や資金循環の仕組みづくりが大切（資金の地産地消）
- ・共助社会では成果の見える化が重要、成果を可視化することで民間投資が促される
- ・地元企業は資金提供のみならず、育てた人材をボランティアとして輩出し、地元の課題と向き合う取組が重要

●後藤澄江委員（日本福祉大学社会福祉学部教授）

- ・中部の女性は、子育てや家事を中心的に担う堅実的なライフスタイルがみられる一方、「家庭と仕事を両立して積極的にキャリア形成、グローバルに活躍」や「地域で活躍を望む」など多様なライフスタイル
- ・高齢者は介護の対象としてだけでなく、社会貢献してもらう視点が重要、「元気なうちの田舎暮らし」ではなく、「元気なうちのU I J ターン」の視点が重要
- ・超高齢化社会の進行に向けた社会福祉分野と住宅政策などハード・ソフト面の連携やインフラ活用の視点が重要
- ・愛知県はしっかりとした NPO が多い。ソーシャルビジネス的な活動を地域社会で支援が重要

●佐々木眞一委員（トヨタ自動車（株）相談役・技監）

- ・我が国を牽引するものづくりの技術力、研究力、品質力、中部には、ものづくりの全てが揃い、世界中からビジネスチャンスを求めて集まる、そのような視点が重要
- ・2020 東京オリ・パラまでの東京一極集中は現実。それまでに中部のアイデンティティ「これが中部」といえるものを確立することが重要
- ・アイデンティティ確立には道路ネットワーク拡充は最重要課題
- ・ICTの進化、中部における車の自動運転への高い実現性
- ・テレワーク型就業は、人口減少高齢化社会におけるライフスタイルを大きく変革させるもの

●染谷絹代委員（島田市長）

- ・地方創生にとって道路ネットワーク強化は最も重要。道路は人、モノ、情報と文化も運ぶ、量的発展の上で質的な発展につながる
- ・高速交通ネットワークの拡充を活かし成長につなげる地域づくり、土地利用規制に係る柔軟な対応が求められる
- ・大学卒業後 10 年間で若者の U I J ターンのタイムリミット感。30 歳成人式の視点で地元企業とのマッチング
- ・増加する公共施設の維持管理、メンテナンス人材の育成、退職技術者の活用
- ・企業の本社機能や国機関の地方移転

●高木朗義委員（岐阜大学工学部教授）

- ・大学におけるインフラメンテナンスや防災減災に係る人材育成教育  
（岐阜大学ME 育成、防災リーダー養成講座）
- ・地域防災力の強化、地域防災リーダーの育成が重要
- ・人材育成に係る地方大学や高校が果たす役割、地元企業や産業と連携した教育が重要

●辻本哲郎委員（国立大学法人 名古屋大学 名誉教授）

- ・五つの基本方針をどのように連関させるかが重要。戦略として「攻め」だけでなく、国内外への「貢献」も重要。最終的に貢献が戦略になる
- ・国土管理をどのようにマネジメント（経営）していくかの視点が重要、持続性がキーワード
- ・持続性を脅かす要因として資源枯渇、地球温暖化、生物多様性など、
- ・地域の多様性を活かした対流、熱源としてコンストラクトを付け、それぞれの流れの干渉をうまく活用するという視点が重要

●牧野光朗委員（飯田市長）

- ・東京一極集中の是正、地方への人口環流の考え方は重要、子育て世代の地方分散の受け皿を中部圏が担うべき
- ・リニアによる支店経済衰退（ストロー）の懸念、企業の東京本社・研究開発機能の地方移転
- ・市町村単独での活力維持、発展は困難。横の連携、広域連携、機能補完の視点が重要
- ・「様々な主体」、誰が担っていくかを意識することが重要、主体意識を持ち推進する視点

●森川高行委員（国立大学法人 名古屋大学未来社会創造機構 教授）

- ・ものづくりに係る人材育成、大学と産業界の連携が重要
- ・海外からの研修生、留学生は日本のファン、中部のファンを育成することにつながる
- ・海外の高度人材、投資の呼び込みのためには高質なサービスの充実が不可欠（外国人の生活環境の充実、インターナショナルスクールの拡充等）
- ・国土の守り手としての若者のU I Jターン。空き家対策とU I Jターンを絡めることは重要
- ・I C T、I T Sを活用したまちづくりは、高齢化社会進展の中で重要
- ・中部圏は、ものづくりを軸に活力ある都市と、自然に恵まれ地域に根付く歴史文化、都市の中の田舎性に溢れる都市・地域が広く分布。名古屋圏（玄関）と周辺都市・地域（奥座敷）が融合・連携した日本の中心地・心臓地帯・心のふるさと、ハートランドを目指すべき
- ・玄関と奥座敷が交通インフラでつながる
- ・中部・北陸9県が一体となった日本のハートランド